博多 88

—博多遺跡群第125次発掘調査報告書—

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第759集

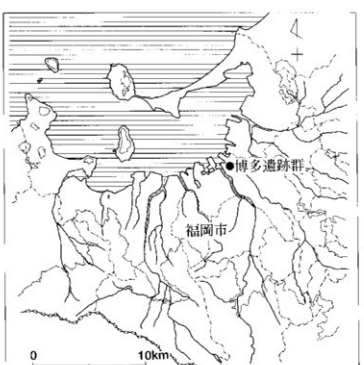
2003

福岡市教育委員会

博多88

－博多遺跡群第125次発掘調査報告書－

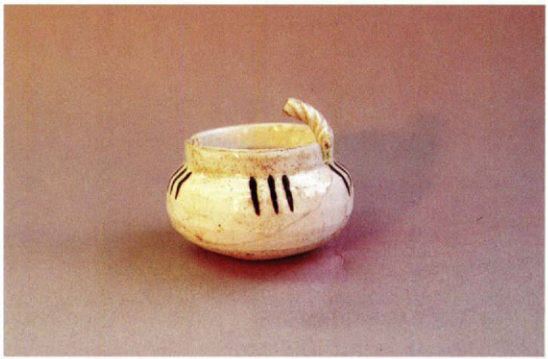
福岡市埋蔵文化財調査報告書　第759集



遺跡略号　HKT－125
遺跡調査番号　0023

2003

福岡市教育委員会



1．SK07 出土磁州窯系白釉鉄彩小提甕

2．SK04 出土中国系押圧波状文軒平瓦

序

古くから大陸文化の門戸として栄えた都市遺跡「博多」の発掘調査は近年の都心部の再開発に伴い、現在までに140次を越え、調査の進展とともに新たな知見が得られています。

本書は共同住宅建設に伴って実施された第125次調査を報告するものです。国際貿易都市「博多」の繁栄を示す輸入陶磁器や中国系瓦の出土等、大変興味深い成果を収めています。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。

発掘調査から資料整理にいたるまでご理解とご協力をいただいた河本建設株式会社（現九州総合建設株式会社）の方々を始めとする関係各位に対し、心から感謝の意を表する次第です。

平成15年3月31日

福岡市教育委員会
教育長　生田征生

例　言

1．本書は共同住宅建設に伴い福岡市教育委員会埋蔵文化財課が平成12（2000）年度に発掘調査を実施した福岡市博多区店屋町34･35･77所在の博多遺跡群第125次調査の報告である。
2．本書に掲載した遺構の実測は担当の福岡市教育委員会埋蔵文化財課佐藤一郎の他、上橋崇起、趙胤宰、林希珍、李僖珍、李泰旻、撮影は佐藤が行った。遺物の実測･撮影は佐藤が行った。
3．製図は遺構を石水久美子、遺構の一部・遺物は佐藤が行った。
4．本書の執筆･編集は佐藤が行った。
5．本報告の記録類、出土遺物は収蔵整理の後、福岡市埋蔵文化財センターで保管されるので、活用されたい。

調査番号	0023	遺跡略号	HKT－125
調査地地籍	博多区天屋町34・35・77	分布地図番号	天神49
開発面積	4,800㎡	調査面積	122㎡
調査期間	2000（平成12）6.20～9.20		

本文目次

Ⅰ．はじめに
　1　調査にいたる経過 …… 1
　2　調査の組織 …… 1
Ⅱ．発掘調査の概要 …… 3
Ⅲ．遺構と遺物
　1　検出遺構 …… 6
　2　出土遺物 …… 6

表目次

第1表　出土土器計測表 …… 10

挿図目次

第1図　博多遺跡群発掘調査地域図 …… 2
第2図　博多遺跡群第125次調査地域周辺図 …… 3
第3図　博多遺跡群第125次調査遺構配置図 …… 4
第4図　検出遺構実測図 …… 5
第5図　出土遺物実測図（1） …… 7
第6図　出土遺物実測図（2） …… 8
第7図　出土遺物実測図（3） …… 9

図 版 目 次

図版１　(1) Ⅰ区Ⅰ層上面全景（南西から）　(2) Ⅰ区Ⅰ層下面全景（南西から）
(3) Ⅱ区Ⅰ層上面全景（北東から）　(4) Ⅱ区Ⅱ層上面全景（北東から）
図版２　(1) SK20 土坑土層（北西から）
(2) SK10･07 土坑土層（南西から）
(3) SE19･24 井戸（北から）　(4) SK20 土坑土層（南から）
(5) SK37･36 土坑土層（東から）　(6) SK42 土坑土層（南東から）
(7) SE55 井戸（北から）　(8) SD38 溝土層（南から）

Ⅰ はじめに

1　調査にいたる経過

1998（平成10）年10月29日、河本建設株式会社から本市に対して博多区店屋町33・34・35・77地内　における共同住宅建築に伴う埋蔵文化財事前審査申請書が提出された。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である博多遺跡群のほぼ中央にあたり、南側の博多浜に位置する。博多遺跡群は博多湾沿いに連なる古砂丘、那珂川右岸下流域に位置する弥生時代中期から近世にいたる複合遺跡である。その範囲は南北約1.5km、東西約0.8kmを測る。申請地の北西では共同住宅建築に伴い発掘調査が行われている。福岡市教育委員会埋蔵文化財課はこれを受けて1998年（平成10年）11月9日に試掘調査を行った。申請地中央の事務所ビルが解体前であったため駐車場部分にトレンチを入れたところ、現地表下約3mで黄褐色砂に達し、掘り下げの際に遺構と遺物を確認した。教育委員会埋蔵文化財課は申請者と文化財保護に関する協議をもったが、建設により破壊される部分を対象にやむを得ず記録保存のための発掘調査を行うこととなった。未買収部分店屋町35・77地を除いて1998年（平成10年）5月6日～10月26日に第115次調査が行われたが、翌年度にはすべて買収が終了し未調査部分の発掘調査が行われることとなった。調査は2000（平成12）年6月20日から9月20日まで行われた。

2　調査の組織

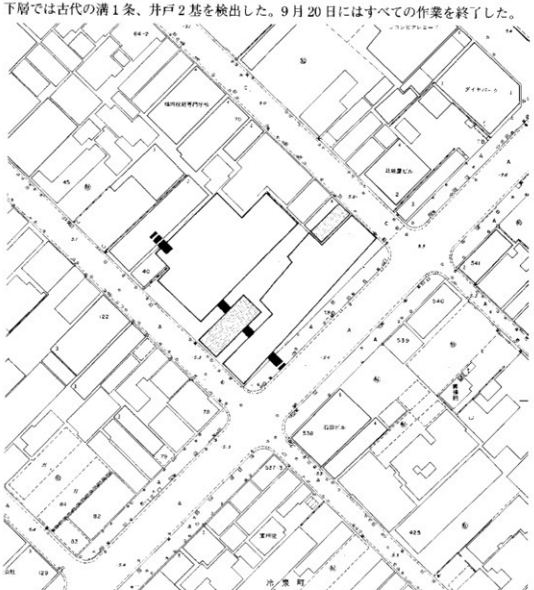
調査委託　福岡市教育委員会
調査主体　福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課
調査総括　埋蔵文化財課長　山崎純男
　　調査第2係長　　力武卓治（前任）　田中寿夫（現任）
庶務担当　文化財整備課　御手洗清
調査担当　試掘調査　杉山富雄　加藤隆也
　　発掘調査　佐藤一郎
発掘調査・資料整理協力者　尼花憲吾・大崎宏之・古賀大輔・三角哲平・木山啓子・田原キヌエ・為房紋子・播磨博子・山口慶子・安永由美子・萬スミヨ・植嵐宰・林希珍・李僖珍・李泰昊・土橋尚起・相川和子・石水久美子・小田敬子

その他、発掘調査に至るまで諸々の条件整備、調査中の調整等について施主の河本建設株式会社の皆様には多大なご理解とご協力をいただき、調査が円滑に進行し無事終了することができました。ここに深く感謝します。

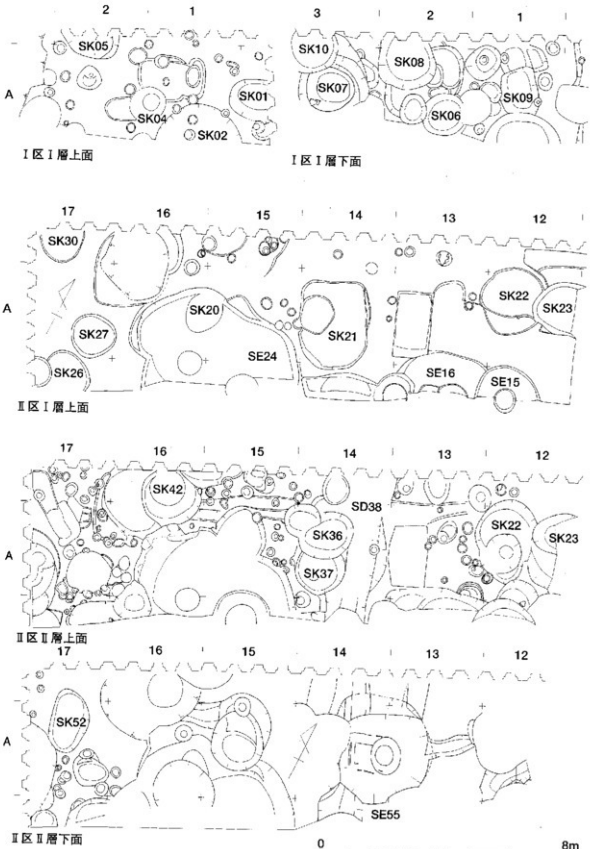
第１図　博多遺跡群発掘調査地域図

Ⅱ　発掘調査の概要

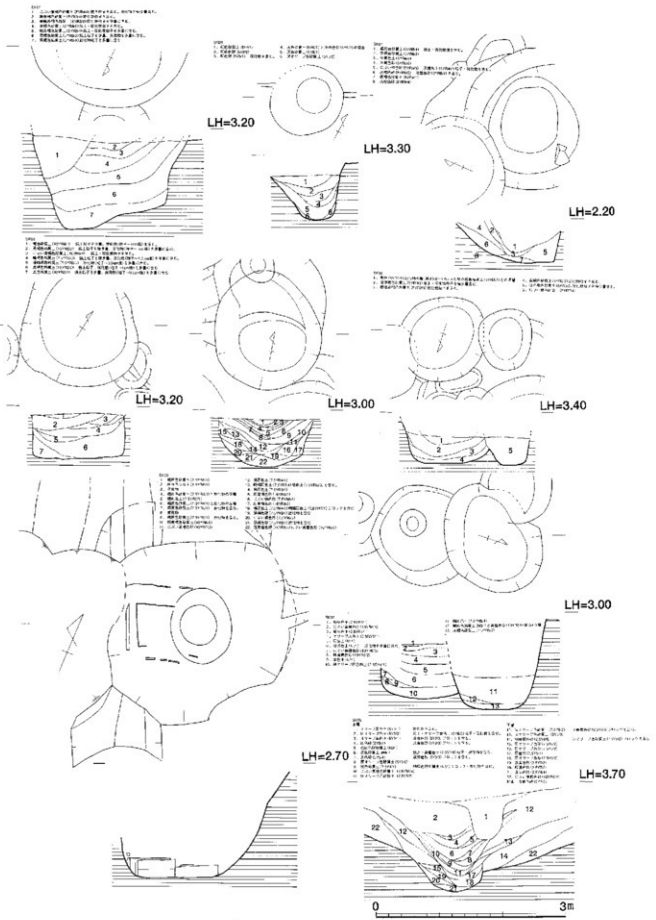
前年に行われた博多遺跡群第115次調査の時点で未買収のために調査できなかった部分、敷地の北側（37m²、Ⅰ区）と西側（107m²、Ⅱ区）2ヵ所の建物の解体を待って、2000（平成12）年6月20日に発掘機材を搬入し、翌6月21日にⅠ区の重機による表土剥ぎから調査を開始した。翌22日には1区に作業員を入れ、同時にⅡ区の表土剥ぎを行った。撹乱を免れた遺物包含層の上面で遺取りを止め、包含層上面で土坑等の遺構を検出、写真撮影・実測の後、包含層を掘り下げその下面での遺構検出に当たった。検出された遺構は11世紀後半～13世紀前半にかけての直径1～2.5mを測る円形の土坑7基で、土坑SK04から両側縁まで残存している押圧波状文軒平瓦が2点、SK07からは磁州窯系白釉鉄（醤）彩小提壺が出土した。7月21日からはⅡ区の調査に入った。Ⅰ区同様に複数の包含層上面で土坑の他井戸4基等の遺構を検出、撮影・実測の後包含層を掘り下げその下面での遺構検出に当たり、下層では古代の溝1条、井戸2基を検出した。9月20日にはすべての作業を終了した。



第2図　博多遺跡群第125次調査地域周辺図



第３図　博多遺跡群第125次調査遺構配置図



第４図　検出遺構実測図

Ⅲ　遺構と遺物

1　検出遺構

検出遺構（第4図　図版2）

SK02 土坑　Ⅰ層上面、A－1で検出した。直径2.5m、深さ1.4mを測る。

SK04 土坑　Ⅰ層上面、A－1・2で検出した。直径1.2m、深さ0.9mを測る。

SK06 土坑　Ⅰ層下面、A－2で検出した。直径1.5m、深さ0.7mを測る。SK04・11に切られる。

SK07 土坑　Ⅰ層下面、A－3で検出した。直径1.8m、深さ0.8mを測る。SK10に切られる。

SK08 土坑　Ⅰ層下面、A－2で検出した。直径1.8m、深さ0.7mを測る。

SK20 土坑　Ⅰ層上面、A－15・16で検出した。直径1.8m、深さ0.8mを測る。

SK37 土坑　Ⅱ層上面、A－14で検出した。直径1.6m、深さ1.2mを測る。SK36に切られる。

SE55 井戸　Ⅱ層下面、A－14・15で検出した。直径3.5m、深さ1.8mを測る。底面近くで2基の切り合いを確認。径0.6mの刳り抜きの井戸枠が、上部に縦板による一辺1.2mの方形井戸枠（先端から10cmと横桟が僅かに残存）、その下部内側に横板による一辺0.7mの方形井戸枠に切られている。

SD38 溝　Ⅱ層上面、A－14・15で検出した。幅2.5m、深さ1.5mを測る。調査区域内では延長2.4m検出した。

2　出土遺物（第5～7図）

今回の調査では各遺構や包含層から夥しい量の遺物が出土したが、遺存状態が良好なものを中心にその概要を報告する。土器の法量については別表を参照されたい。

SK02 出土遺物　土師器　小皿（1～7）・杯（8・9）　底部の切り離しは1・4がヘラ、他は糸による。体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。

SK04 出土遺物　土師器　小皿（10～16）　底部は糸切り離しによる。体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。

SK05 出土遺物　土師器　小皿（17～19）　底部の切り離しは19がヘラ、他は糸による。体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。

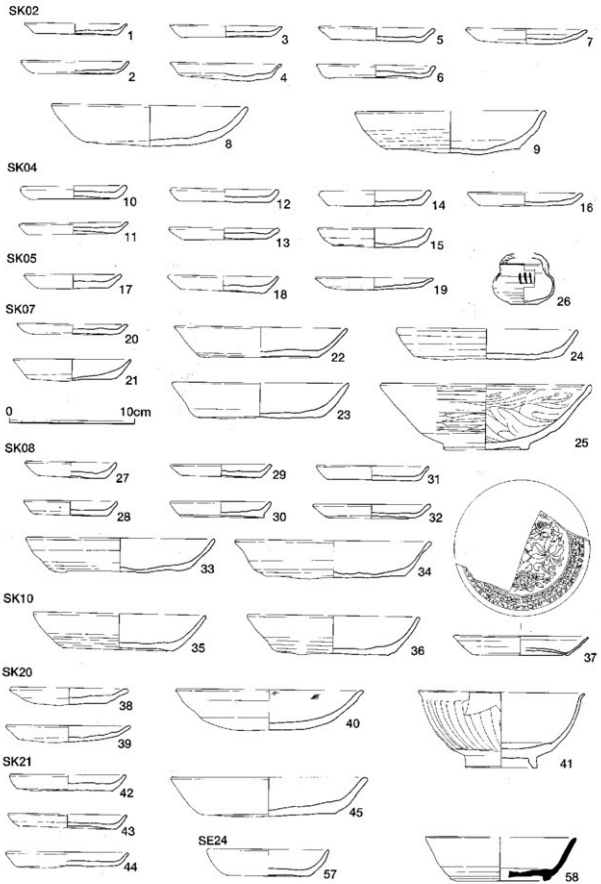
SK07 出土遺物　土師器　小皿（20・21）・杯（22・23）　底部の切り離しは21・23がヘラ、他は糸による。体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。　**瓦器**　椀（25）直線的にのびる体部外面に横方向、内面にはジグザグにヘラ磨きを施す。　**磁州窯系白釉鉄彩陶器**　小提瓶（26）　平底の丸い体部に直立の頸部が付く。撚り紐状の把手がつく。

SK08 出土遺物　土師器　小皿（27～32）・杯（33・34）　底部は糸切り離しによる。体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。28は堅緻に焼成され、橙色（5YR6/6）を呈する。

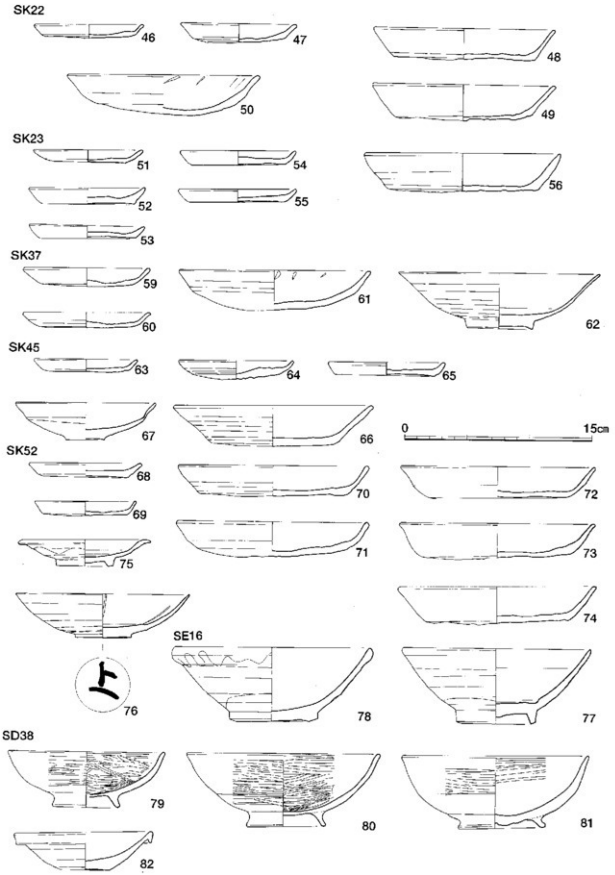
SK10 出土遺物　土師器　杯（35・36）　底部は糸切り離しによる。体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。　**青白磁**　皿（37）　内面に双魚文を型押しする。

SK20 出土遺物　土師器　小皿（38・39）　底部はヘラ切り離しによる。体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。　丸底杯（40）　底部は糸切り離しによる。体部外面は回転横ナデ、内面はコテ状の工具で平滑に仕上げられている。　**白磁**　碗（41）　釉下に白化粧を塗布し、体部外面に放射状の条線をヘラ描きする。

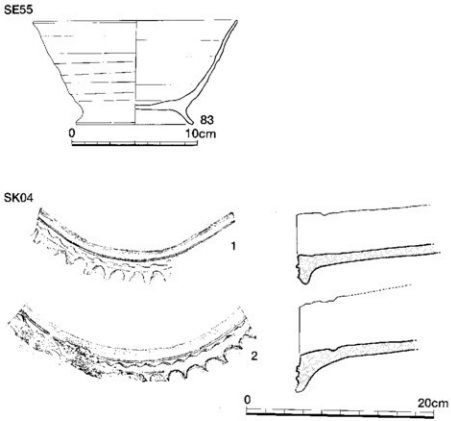
SK21 出土遺物　土師器　小皿（42～44）・杯（45）　底部は糸切り離しによる。体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。



第５図　出土遺物実測図(1)



第6図　出土遺物実測図(2)



第７図　出土遺物実測図(3)

SK22 出土遺物　土師器　小皿（46・47）・杯（48・49）　底部の切り離しは 46・47 がヘラ、他は糸による。体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。　丸底杯（50）底部は糸切り離しによる。体部外面は回転横ナデ、内面はコテ状工具で平滑に仕上げられる。堅緻に焼成され、橙色（5Y7/8）を呈する。

SK23 出土遺物　土師器　小皿（51～55）・杯（56）底部は糸切り離しによる。体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。51 の胎土は精良で、橙色（7.5YR7/6）を呈する。体部はやや丸みをもち、底径は他のそれより小さい。豊前系の土師器であろう。

SK24 出土遺物　土師器　杯（57）底部は糸切り離しにより、体部外面から内底まで回転横ナデされる。須恵器　杯（58）

SK37 出土遺物　土師器　小皿（59・60）　底部はヘラ切り離しによる。体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。丸底杯（61）　底部はヘラ切り、体部外面は回転横ナデ、内面はコテ状工具で平滑に仕上げられる。**白磁**　碗（62）　高台の刳り出しが浅く、底部が厚くなっている。

SK45 出土遺物　土師器　小皿（63～65）・杯（66）　底部の切り離しは 64 がヘラ、他は糸による。体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。**白磁**　皿（67）　やや上げ底の底部で、体部中位で屈曲し、口縁部が外反してのびる。

SK52 出土遺物　土師器　小皿（68・69）・杯（70－74）　底部の切り離しは 69・73 がヘラ、他は糸による。体部は回転横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。**白磁**　皿（75・76）75 は内底見込を輪状に釉を掻き取った高台付皿である。76 は体部内面を堆線で画す。釉下に白化粧土を施す。外底に墨書「上」が記されている。　碗（77）　口縁部が直線的にのびる碗Ⅵ類である。

SE16 出土遺物　白磁　Ⅲ（78）　内底見込に沈圏線をもたない碗Ⅳ類である。

SD38 出土遺物　黒色土器　椀（79～81）　丸みをもった体部中位のやや上で屈曲し、やや外反する口縁部が付く。八の字状の高台が貼り付けられている。　**越州窯系青磁**　Ⅲ（82）　口縁部は鋭く折り返され、底部は平底を呈する。

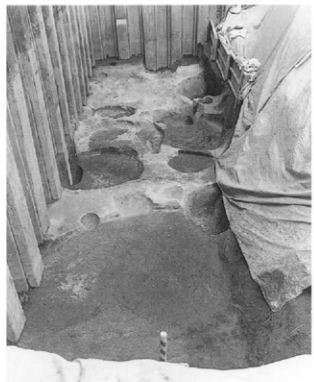
SE55 出土遺物　須恵器　杯（83）　体部から口縁部まで直線的にのびる。八の字状の高台が付く。**軒平瓦**（1・2）　中国系の押圧波状重弧文軒平瓦で、断面形は1がL字状、2は如意状を呈している。いずれも両側縁まで残存しているが、瓦当部の約1/3が欠失している。SK04 出土。

挿図番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)
SK02			
土師器小皿			
1	8.2	0.9	6.7
2	8.6	1.0	6.5
3	8.9	1.0	7.1
4	8.9	1.3	7.2
5	9.3	1.1	7.2
6	9.4	1.0	7.5
7	9.6	1.2	7.9
土師器杯			
8	15.7	3.3	10.1
9	15.2	3.3	10.7
SK04			
土師器小皿			
10	8.5	1.0	6.7
11	8.7	0.9	6.8
12	8.7	1.0	7.3
13	8.8	0.9	6.7
14	9.0	1.2	7.4
15	9.1	1.6	6.9
16	9.2	1.0	7.4
SK05			
土師器小皿			
17	7.8	1.2	5.4
18	8.9	1.2	6.7
19	9.4	1.0	7.8
SK07			
土師器小皿			
20	8.8	0.9	6.2
21	9.4	1.7	6.6
土師器杯			
22	13.8	2.4	9.3
23	14.1	2.7	9.9
24	14.5	2.4	11.6
瓦器椀			
25	16.9	5.3	6.4
SK08			
土師器小皿			
27	7.3	1.2	5.3
28	7.5	1.2	5.8
29	8.1	1.0	6.3
30	8.1	1.3	6.8
31	9.0	1.2	7.4
32	9.4	1.1	6.7
土師器杯			
33	15	2.7	10.2
34	15.6	3.0	11
SK10			
土師器杯			
35	13.7	2.8	8.7
36	13.7	3.0	8.8
SK20			
土師器小皿			
38	9.4	1.4	5.9
39	9.8	1.3	7.6
土師器丸底杯			
40	14.9	3.2	
SK21			
土師器小皿			
42	9.3	1.3	7.7
43	9.5	1.1	7.8
44	9.8	1.1	8.2
土師器杯			
45	15.6	3.1	10.6
SK22			
土師器小皿			
46	8.7	1.1	6.7
47	9.4	1.5	6.5
土師器杯			
48	14.5	2.4	11.3
49	14.6	2.9	11.0
土師器丸底杯			
50	15.3	3.2	
SK23			
土師器小皿			
51	8.7	1.0	5.7
52	9.2	1.3	7.4
53	9.2	1.0	7.6
54	9.3	1.1	7.4
55	9.4	1.0	7.6
土師器杯			
56	15.7	3.1	11.8
SK24			
土師器杯			
57	9.7	2.1	6.4
須恵器杯			
58	12.0	3.4	8.0
SK37			
土師器小皿			
59	10.0	1.5	7.3
60	10.2	1.2	7.4
土師器丸底杯			
61	15.2	3.2	
SK45			
土師器小皿			
63	8.2	1.0	6.9
64	9.2	1.5	6.7
65	9.4	1.0	7.9
土師器杯			
66	15.8	3.3	9.7
SK52			
土師器小皿			
68	9.0	1.1	6.8
69	8.1	1.1	6.6
土師器杯			
70	15.2	2.4	11.7
71	15.3	2.8	11.8
72	15.6	2.5	10.8
73	15.7	2.7	11.3
74	15.8	3.0	11.2
SD38			
黒色土器椀			
79	12.4	4.4	5.4
80	15.4	5.8	6.2
81	14.9	5.8	7.0
SE55			
土師器杯			
83	16.3	8.3	9.4

第1表　出土土器計測表

図　　版

(1)　Ⅰ区Ⅰ層上面全景（南西から）

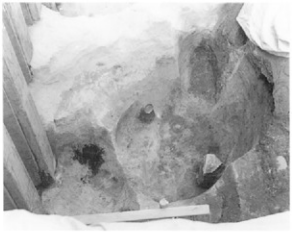


(2)　Ⅰ区Ⅰ層下面全景（南西から）

(3)　Ⅱ区Ⅰ層上面全景（北東から）

(4)　Ⅱ区Ⅱ層上面全景（北東から）

(1) SK20土坑土層（北西から）

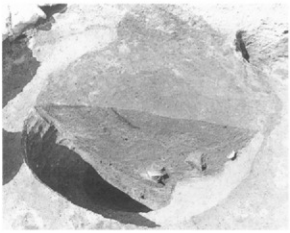


(2) SK10・07土坑土層（南西から）

(3) SE19・24井戸（北から）

(4) SK20土坑土層（南から）

(5) SK37・36土坑土層（東から）



(6) SK42土坑土層（南東から）

(7) SE55井戸（北から）

(8) SD38溝土層（南から）

博 多 88

－博多遺跡群第125次発掘調査報告書－

2003年（平成15年）3月29日

発 行　福岡市教育委員会

福岡市中央区大神1丁目8番1号

印 刷　大野印刷株式会社

福岡市博多区榎田2丁目2番65号